

「公衆衛生」第75巻総目次

2011年(第1号～第12号)

数字は通巻頁数, ()は号数

特集

◆75巻1号「ヒトと家畜・ペット・野生動物の感染症一口蹄疫から学ぶ」

家畜の主な伝染病：白井淳資, 6(1)

家畜の伝染病対策：筒井俊之・早山陽子, 13(1)

ブルセラ症と炭疽：江崎孝行, 19(1)

BSEの世界の現状と対策の評価：山本茂貴, 23(1)

ペット(イヌ・ネコ)と動物由来感染症

① カブノサイトファーガ・カニモルサス感染症：鈴木道雄, 26(1)

② コリネバクテリウム・ウルセランス感染症：岩城正昭, 28(1)

野生動物と動物由来感染症

① つつが虫病と日本紅斑熱：馬原文彦・藤田博己, 31(1)

② ダニ媒介性脳炎：荏和宏明・好井健太郎・高島郁夫, 36(1)

近年のチクングニア熱の流行状況：林昌宏・高崎智彦, 39(1)

E型肝炎：石井孝司・李天成, 43(1)

◆75巻2号「医薬品・ワクチン開発をめぐる諸課題」

わが国における医薬品供給のしくみ—研究開発から承認審査, 市販後, 流通まで：丸山浩, 86(2)

ドラッグラグとは何か—様々なtradeoffを考える必要がある：小野俊介, 90(2)

未承認薬・適応外薬の使用をめぐる課題：土田尚, 94(2)

有効で安全な医薬品開発の支援：北窓隆子・志田正純・皆葉清美, 99(2)

わが国におけるワクチン開発と生産供給のしくみ：畑美郁・奥野良信, 104(2)

ワクチンギャップとこれからの対応：神谷齊, 109(2)

国内の新薬開発についての課題—経済学, 経営学の視点から：真野俊樹, 116(2)

新ワクチン・新薬の導入・再評価をめぐる課題—健康成人インフルエンザに対するノイラミニダーゼ阻害

剤のコクランレビュー改訂の経験を通して：林敬次, 120(2)

◆75巻3号「子どもを護る—社会的不利への介入と支援」

豊かな社会における子どもの貧困問題—母子生活支援施設の子どもをめぐって：中澤香織・松本伊智朗, 174(3)

子どもを護るソーシャルサービスの現状と課題：北場勉, 179(3)

子どもの社会的不利に対する社会政策—イギリスのシェア・スタート：埋橋玲子, 183(3)

子どもを護る母子保健の現状と課題—子どもを護る観点から：小林美智子, 187(3)

子どもを護る保健師活動の現状と課題：上野昌江, 197(3)

高校現場における貧困問題と社会的支援の現状：山田勝治, 202(3)

「無保険の子」と現代の貧困—毎日新聞のキャンペーン報道を通じて：平野光芳, 208(3)

平成の赤ちゃんポスト「こうのとりのゆりかご」—その経緯と意義：蓮田太二, 212(3)

◆75巻4号「超高齢社会に備える」

超高齢社会の実像を踏まえた健康福祉政策：鈴木隆雄, 266(4)

超高齢社会における介護保険制度の展望：大森彌, 272(4)

超高齢社会に向けた医療制度改革の展望：池上直己, 276(4)

高齢者の社会的孤立とその予防戦略：藤原佳典, 281(4)

超高齢社会に備えた介護予防プログラム—科学的知見に基づく課題と展望：武林亨, 285(4)

超高齢社会に備えた食生活・栄養摂取等の改善—長期コホート研究からの提案：上島弘嗣, 289(4)

終末期の医療・介護と尊厳死をめぐる課題と展望：岩尾総一郎, 296(4)

成年後見制度の重要性と定着・普及への課題：宮内康二, 301(4)

超高齢社会とユニバーサルデザイン：永田久雄,

305(4)

◆ 75 巻 5 号「基礎から学ぶ食品衛生」

わが国の食品衛生施策の現状と課題：萩原竜佑，358(5)

保健所の食品衛生対策の現状と課題—埼玉県を例に：橋本勝弘，363(5)

食品添加物：西島基弘，367(5)

残留農薬・残留動物用医薬品：米谷民雄，371(5)

安全性評価の手法：小松一裕，376(5)

輸入食品と検疫所：厚生労働省医薬食品局食品安全部企画情報課検疫所業務管理室，381(5)

食品表示制度の現状と課題：池戸重信，385(5)

食品の安全に関するリスクコミュニケーションとマスメディア：松永和紀，389(5)

◆ 75 巻 6 号「基礎から学ぶ環境衛生」

東京都の建築物衛生行政：木原真隆，436(6)

新しい「住まいと健康」問題と公衆衛生技術者のアプローチ：鈴木晃，443(6)

水道水の安全確保に関する現状と課題：片山浩之，448(6)

衛生害虫と昆虫媒介感染症：小林陸生，452(6)

弱者と衛生害虫—自ら対応が困難な者の実態：矢口昇，456(6)

浴場や環境中からのレジオネラ感染：倉文明，460(6)

大地震等の災害時における環境衛生対策：五味武人・竹内彦俊・鈴木晃・八木憲彦・中島二三男・奥田博子，465(6)

墓地の動向を俯瞰する：横田陸，471(6)

◆ 75 巻 7 号「健康危機兆候のモニタリング」

健康危機兆候の早期把握の重要性と今後の対応—公衆衛生モニタリング・レポート委員会の活動から：原田規章，510(7)

危機兆候の早期把握を目指した新たな情報管理システム—空間ドキュメント管理システム SDMS の有用性：有川正俊・浅見泰司，515(7)

行政統計リンケージによる健康リスク予測の可能性：益島茂，521(7)

環境汚染のモニタリングと要因解析—樹氷等の分析から：柳澤文孝，525(7)

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の意義と今後の展望：佐藤洋，529(7)

先天異常モニタリングの有用性と今後の展望：平原史樹，533(7)

地球温暖化が感染症に及ぼす影響—変化する感染症の早期探知に向けてのモニタリング：倉根一郎，

538(7)

感染症・食中毒の diffuse outbreak の早期探知—最近の事例を踏まえた課題と今後の展望：砂川富正，542(7)

◆ 75 巻 8 号「高齢者の事故」

人口動態統計から見た高齢者の事故：綿引信義，586(8)

高齢者の転倒：青柳潔，591(8)

高齢者の入浴事故：高橋龍太郎，595(8)

高齢者の窒息・誤嚥：向井美恵，600(8)

高齢者の熱傷：春成伸之・飯田美奈子・平野真美，607(8)

高齢者の交通事故：玉城英彦，611(8)

◆ 75 巻 9 号「分権型社会における公衆衛生の課題—現場知と専門知の保証」

公衆衛生の現場知と専門知：高島毛敏雄，662(9)

英国における近代的地方自治制度の形成と公衆衛生の成立：岡田章宏，668(9)

英国における公衆衛生の人材育成制度—専門知，現場知の観点から：高野健人，672(9)

東京都における公衆衛生医師育成の現状と課題—現場知と専門知：前田秀雄，677(9)

大阪市における公衆衛生医師確保の現状と課題：竹内敏，681(9)

分権型社会における自治体の公衆衛生活動の可能性と課題：藤岡正信，686(9)

指定都市における公衆衛生専門職の現場知と専門知について：中瀬克己，690(9)

公衆衛生政策における現在知の集積・総合・共有—英国からの示唆：松田亮三，695(9)

◆ 75 巻 10 号「睡眠と健康」

現代社会における睡眠障害の実態と疫学：土井由利子，746(10)

睡眠研究の進歩：井上昌次郎，751(10)

睡眠と生活習慣病：三島和夫，755(10)

睡眠時無呼吸症候群(SAS)対策の現状：淡野桜子・谷川武，760(10)

不眠とうつ，アルコール：野田哲朗，764(10)

不眠症の診断と睡眠薬：山寺亘，769(10)

睡眠と子どもの成長発達：神山潤，774(10)

高齢者の睡眠：内山真，779(10)

女性の睡眠とその障害：相良雄一郎・大川匡子・山田尚登，784(10)

◆ 75 巻 11 号「放射線と向き合う」

放射線と正しく向き合うために—公衆衛生従事者に必要な基礎知識：明石真言，824(11)

低線量放射線の健康影響—チェルノブイリ事故の疫学調査を中心にして：山口一郎，830(11)

放射線の環境影響—国際的な研究動向と最新知見：酒井一夫，834(11)

原子力・放射線災害の危機管理と保健所活動：竹之内直人，838(11)

環境放射能モニタリングと環境放射能研究の重要性：廣瀬勝己，842(11)

農産物生産環境の放射性物質モニタリング：木方展治，846(11)

食品安全と放射性物質—リスクの考え方：小泉直子，851(11)

食品中の天然放射性核種の実態と公衆衛生上の課題：杉山英男・寺田宙，856(11)

食品照射をめぐるわが国の現状と課題：多田幹郎，863(11)

◆ 75 巻 12 号「広域・複合災害に備える—自治体の公衆衛生活動」

広域災害に対する公衆衛生活動：桜山豊夫，910(12)

東日本大震災における被災地救護活動のマネージメント：石井正，914(12)

被災地の医療支援と医療復興の課題：尾身茂，921(12)

東日本大震災の復旧復興に向けた支援—阪神・淡路大震災の経験を生かして：井戸敏三，925(12)

東日本大震災の被災地への公衆衛生活動支援—大阪府の現状から：永井仁美，929(12)

東日本大震災における被災地への保健師派遣と被災者に対する健康支援の現状と課題：畑農文，938(12)

東日本大震災の被災地の保健所活動の現状と課題：白井千香，942(12)

被災地における被災者(住民・公衆衛生関係者)の支援活動—陸前高田市の現地調整・後方支援活動から：佐々木亮平，947(12)

世界の大災害の被さい地から被さい者支援を考える：石塚彩，951(12)

視 点

喫煙対策と肥満対策に思う：大島明，2(1)

保健所活性化を原点から：藤岡正信，82(2)

自殺防止：上畑鉄之丞，168(3)

獣医学教育における公衆衛生学(獣医公衆衛生学)：品川邦汎，260(4)

公衆衛生とリスク：西村周三，354(5)

今後の健康づくり—生活習慣病予防—介護予防のあり方：富永祐民，432(6)

保健所の数だけ保健所のあり方がある：西岡和男，506(7)

公衆衛生とは何だろう？〔公衆衛生のアイデンティティを求めて・1〕：實成文彦，578(8)

「個人」と「集団」との間を隔てる長い距離：小林修平，658(9)

日本における公衆衛生学の変遷—内科医の視点から：日野原重明，742(10)

これからの予防接種のあり方を考える：平山宗宏，820(11)

日本の国際保健戦略に欠けるもの—世界の視点から：古知新，906(12)

特別記事

【対談】「研究」について語ろう：中村好一・辻一郎，125(2)

【対談】住民主体のソーシャルキャピタル形成活動とプロセス支援体制：待島美光・福島富士子(企画・構成/みつひ ひろみ)，393(5)

放射能の中で暮らす(上)—被災地・福島を訪れて：船元康子，548(7)

放射能の中で暮らす(下)—被災地・福島を訪れて：船元康子，618(8)

【対談】3.11 後の日本の医療と社会を考える：尾身茂・堀田力，700(9)

特別寄稿

海外メディアの一員として被災地取材して—震災直後のレポート：松元千枝，621(8)

全国薬物依存症者家族連合会の活動：小松崎未知，626(8)

〔複合災害の被災地における保健師活動・1〕「公衆衛生」の再建と「ノーモア・フクシマ」の願いは可能か—東日本大震災，福島原発地区の保健師を訪ねて：荘田智彦，706(9)

〔公衆衛生のアイデンティティを求めて・2〕公衆衛生学の分化と統合をめぐる：實成文彦，710(9)

〔複合災害の被災地における保健師活動・2〕保健師ボランティア・チームとして原発特区の支援に入るまで—平時に備えないことは非常時には対応できない：荘田智彦，792(10)

〔原発事故による放射線災害から学ぶこと—健康リスクに関する現状の論点整理と科学者・専門家の役割・1〕福島原発事故による放射線被ばく影響に関する学術的な論点について：岸(金堂)玲子，867(11)

〔複合災害の被災地における保健師活動・3〕全住民が
“災害弱者”一試される“専門性”―福島被災地に同
行して、保健師の活動をどう見たか：荘田智彦、
873(11)

〔原発事故による放射線災害から学ぶこと―健康リス
クに関する現状の論点整理と科学者・専門家の役
割・2〕科学者・専門家の役割について：岸(金堂)
玲子、956(12)

トピックス

「川崎病の子供をもつ親の会」保健文化賞を受賞：浅
井満、48(1)

口蹄疫―何が問題か？：中村好一、217(3)

認知症高齢者の自動車運転を考える家族介護者のため
の支援マニュアル：荒井由美子・水野洋子、
310(4)

「災害支援パブリックヘルスフォーラム」仙台フォー
ラムの開催と今後の活動：災害支援パブリックヘル
スフォーラム、789(10)

資料

デンマークにおける保健医療関連データベースに関す
る調査研究：中谷直樹・中谷久美・中村好一・辻一
郎、160(2)

回復期リハビリテーション病棟における地域連携カン
ファレンスの取り組みとその評価：手塚康貴・塩谷
求美・徳永奈穂子・福井祥二・中村元紀・栢瀬大
輔・松本直子・本田優子・山本郁子・西原大吾・河
合英行、346(4)

地域住民を対象とした山形県うつ病予防対策事業と自
殺率低下との関連性についての検討：大類真嗣・荒
木京子・石澤真由美・有海清彦、895(11)

フォーラム

公衆衛生的視点から緩和ケア、グリーフの臨床を考え
る：岩本喜久子・山上実紀、253(3)

ヘルスプロモーション活動における病院が担うべき役
割：Health promoting hospitals and services
(HPH)：舟越光彦、500(6)

海外事情

福祉国家デンマーク視察：川上ちひろ、426(5)

連載

◆人を癒す自然との絆：大塚敦子

成長の庭：50(1)

セラピー犬という薬：132(2)

日本のセラピー犬：222(3)

日本初の動物介在矯正プログラム：314(4)

子どものシェルターで活躍するセラピー犬：400(5)

震災のあと―それでも花は咲く：476(6)

エイズ患者とペットを支える：552(7)

ろうの少年と動物介在療法：630(8)

ヒーリング・ガーデン：718(9)

児童養護施設退所後に備えるメンターリング・プログ
ラム：796(10)

ロンドンのシティ・ファーム―コミュニティの格差解
消をめざす：878(11)

馬をとおして自分を知る：960(12)

◆保健所のお仕事―健康危機管理事件簿：

荒田吉彦

新型インフルエンザへの対応(平成21年度)その3：
52(1)

新型インフルエンザへの対応(平成21年度)その4：
134(2)

新型インフルエンザへの対応(平成21年度)その
5+ α ：224(3)

腸管出血性大腸菌感染症の対応(平成8年度)その1：
327(4)

腸管出血性大腸菌感染症の対応(平成8年度)その2：
412(5)

集団胃腸炎への対応(平成10年度)その1：486(6)

集団胃腸炎への対応(平成10年度)その2：564(7)

集団胃腸炎への対応(平成10年度)その3：641(8)

牛海綿状脳症(BSE)陽性牛の確認(平成14年)：
729(9)

◆〔番外編〕保健所のお仕事―日常業務編：

荒田吉彦

研修会実施の楽しみと苦しみ：806(10)

医療分野への関与：889(11)

全国保健所長会のお仕事：971(12)

◆保健師さんに伝えたい24のエッセンス―親子 保健を中心に：平岩幹男

思春期の性の問題点：56(1)

性教育とその周辺：138(2)

Health Reform と Respect, Self-esteem：227(3)

◆トラウマからの回復―患者の声が聞こえます か？

“被害者”をやめたら、前に進みたくなった：橋本寛
子、60(1)

私は幸せになってはいけない：佐々木洋子、142(2)

虐待のかたち・上：永田剛、231(3)

虐待のかたち・下：永田剛，331(4)
生存スキルとしての精神障害：斎藤学，416(5)
◆ **リレー連載・列島ランナー**
県職員に対する健康管理対策の取り組み—初めて保健師が配属された部署における活動：菊地とも子，64(1)
北の大地から保健師活動を思う—保健師同士の連携・協働から：加倉雅代，146(2)
全国初！保健師が創った「南宗谷難病医療システム」：工藤裕子，235(3)
市町村保健師活動の醍醐味！：菊池まち子，334(4)
市町村・保健所の協働による保健師の育ち合いを目指して—北海道市町村新人保健師等現任教育ガイドラインについて：菊地みさき，419(5)
既存統計は地域における自殺対策に活かせるか？：藤井充，490(6)
国際保健のスキルを故郷へ：四方啓裕，567(7)
肅々と進まない健康づくり：糸数公，645(8)
保健所長の必要条件：岩松洋一，733(9)
地域に発達支援システムをつくる：土岐篤史，808(10)
乳児期からの早期支援を目指して：寺岡公美，892(11)
健康共育，健康楽習をめざして—南の島のピア・エデュケーション：城所望，974(12)
◆ **お国自慢—地方衛生研究所シリーズ**
無毒大麻「とちぎしろ」の開発—栃木県保健環境センター：黒崎かな子，69(1)
京都府保健環境研究所 その1：井端泰彦，150(2)
京都府保健環境研究所 その2：井端泰彦，242(3)
山口県環境保健センターにおけるフグ毒研究：調恒明・吹屋貞子・立野幸治・富田正章・平田晃一，338(4)
◆ **世界の健康被害：鎌仲ひとみ**
「ひばく」は暮らしのなかに：76(1)
生命力と愛：158(2)
命のざわめき：250(3)
雪のサラエボ：344(4)
3.11 後，「内部被曝」の時代が始まった：424(5)
守るべきもの：498(6)
“風下に生きる”ということ：572(7)
原子力プロバガンダ：650(8)
ウランよりもチーズを—オーストラリアのビジネスをめぐる：736(9)
福島の子どものたちの現在—放射能汚染地に生きる：814(10)

大惨事の後で：900(11)
内部被曝を生きぬく：980(12)
◆ **衛生行政キーワード**
チーム医療の推進について：石井安彦，73(1)
グローバル・ヘルスについて：西澤和子，155(2)
日本における介護予防—介護予防事業の現状と課題について：日野原友佳子，246(3)
医療イノベーションについて：松本晴樹，342(4)
ヒト白血病ウイルス-1 型(HTLV-1)の母子感染予防対策について：森岡久尚，494(6)
人口問題関連の3つの指標—合計特殊出生率，低出生体重児，不妊治療：馬場征一，652(8)
国立病院の在り方について：新田惇一，812(10)
結核医療提供体制をどう考えるか—疾病構造の変化に合わせた適切な医療提供体制とは：伊藤智朗，978(12)
◆ **保健活動の try！ 学会で発表しよう 論文を執筆しよう：中村好一**
なぜ，成果を報告しなければならないのか(本連載の主旨)：316(4)
まずは日本語：402(5)
文献検索：479(6)
発表する学会を選ぶ：555(7)
学会発表演題申し込み(抄録作成)：633(8)
スライドの作成：720(9)
ポスターの作成：798(10)
発表原稿：880(11)
学会発表当日(前後を含めて)：963(12)
◆ **地域づくりのためのメンタルヘルス講座**
地域のメンタルヘルスの問題はどのように変わっているのですか？：竹島正・宇田英典・眞崎直子，321(4)
精神保健サービスにうまくアクセスできないのはどのような事情によるのですか？：野口正行，408(5)
「ひきこもり」はどれくらいいるのですか？ 背景にあるメンタルヘルスの問題と支援上の注意事項を教えてください：近藤直司，483(6)
ホームレスとはどのような状態をいうのですか？ またホームレスの人たちの抱えるメンタルヘルスの問題の特徴と支援上の注意事項を教えてください：森川すいめい，560(7)
自殺の危険の高い人たちの自殺リスクはどのように推移するのですか？ 支援のあり方にはどのような注意が必要ですか？：勝又陽太郎，637(8)
虐待，暴力を経験した人たちの抱えやすいメンタルヘルス問題の特徴と支援上の注意事項を教えてください

い：松本俊彦，725(9)
地域での取り組みを教えてください：野口正行，
802(10)
精神医療の取り組みについて教えてください：野田哲
朗，884(11)
ホームレス者支援の取り組みについて教えてください—
「自律」の視点から：森川すいめい，967(12)

コラム

◆ 列島情報：日置敦巳

食生活改善推進員のエネルギー：30(1)
COPD：216(3)
医療連携パスコーディネーター養成講座：470(6)
学校におけるフッ化物洗口：599(8)
救急患者の受診状況：778(10)
食育と郷土料理：829(11)

◆ 公衆衛生「書評」

「健康なくに」：嶋村清志，72(1)
〈総合診療ボックス〉「症状でみる子どものプライマ
リ・ケア」：橋本剛太郎，320(4)

◆ 予防と臨床のはざまで：福田洋

第16回産業保健サービス・調査・評価に関する科学
分科会ダイジェスト：46(1)
さんぽ会×NPO 健康教育士養成機構共催，特定保健
指導シンポジウム：164(2)
第6回看護師のための糖尿病外来スキルアップミーテ
ィングダイジェスト：252(3)
日本医学会総会プレイベント「動脈硬化予防フォーラ
ム」ダイジェスト：341(4)
東日本大震災：423(5)
企業の東日本大震災対応：497(6)
Rescue 311 の取り組み：571(7)
釜石・大槌地区訪問(1)：632(8)
釜石・大槌地区訪問(2)：738(9)
ミシガン大学 Graduate Summer Session in
Epidemiology 2011 参加記～その1：811(10)
ミシガン大学 Graduate Summer Session in
Epidemiology 2011 参加記～その2：902(11)
ミシガン大学 Graduate Summer Session in

Epidemiology 2011 参加記～その3：962(12)

◆ 映画の時間：桜山豊夫

クレアモントホテル：71(1)
ヤコブへの手紙：124(2)
私の愛，私のそばに：234(3)
ミツバチの羽音と地球の回転：330(4)
六ヶ所村ラブソディール：388(5)
ゲキ×シネ「薔薇とサムライ」：489(6)
いのちの子ども：537(7)
おじいさんと草原の小学校：606(8)
マーガレットと素敵な何か：689(9)
ゲーテの恋～君に捧ぐ「若きウェルテルの悩み」～：
773(10)

無言歌：855(11)

ミツコ感覚：955(12)

◆ 沈思黙考：林謙治

フーバーと，恐慌時の経済政策：38(1)
「公衆衛生」(Public Health)ということば：149(2)
Health Sector の役割：249(3)
世界の公衆衛生の組織：340(4)
DRG(Diagnosis Related Group)へのシフト：384(5)
津波：464(6)
命の大切さを思う：547(7)
被災地にて：644(8)
原発との共存か，脱原発か：732(9)
精神医療の変遷：750(10)
高齢者の医療と法：862(11)
「合理主義」の限界：941(12)

◆ お知らせ

第32回保健活動研修会：459(6)

◆ 読者の声

災害時の口腔ケアのサイト作成：鈴木俊夫，496(6)
老人介護の現場から見た公衆衛生への期待：井口恒
男，559(7)

◆ 公衆衛生 Books

『新型インフルエンザ(A/H1N1)：わが国における対
応と今後の課題』：920(12)
『救える死：自死のない社会へ』：973(12)